

はじめに

昨年は、観測史上最高の世界年平均気温を2年連続で更新しました。また、近年、全国各地で地震や台風、大雨などによる災害が頻発化・激甚化しており、東北地方においても河川の氾濫や土砂災害が発生するなど、甚大な被害が生じました。気候変動や生物多様性の危機など、地球環境をめぐる課題は深刻さを増しております。

こうした情勢を背景に、本県では、令和5年3月に策定した「みやぎゼロカーボンチャレンジ2050戦略」に基づき、県民一丸となって温暖化対策を進めるため、「みやぎゼロカーボンチャレンジ2050県民会議」を設立し、県民総ぐるみによる取組を推進しています。また、再生可能エネルギー発電事業に対し、災害・景観・環境等への懸念を地域が抱えている状況を踏まえ、再生可能エネルギーの最大限の導入と環境保全の両立のための新たな取組として、再生可能エネルギー発電事業の地域との共生に向けた「再生可能エネルギー地域共生促進税」を導入しました。

さらに、昨年は、野生動物による被害が深刻化する中で、「クマによる人身被害の防止」に向けた対策にも力を入れました。自然と人間が調和して共存できる社会の実現を目指し、地域住民と連携した取組を進めています。そして、県民一人ひとりが気軽にごみ拾い活動に参加できるよう、新たに「クリーンアップみやぎ」としてごみ拾いの取組を「見える化」するウェブページを公開しました。これにより、環境保全活動の裾野が広がることを期待しています。

令和6年版宮城県環境白書は、環境基本条例に基づき、令和5年度における本県の環境の状況と県が講じた施策の状況を公表するものです。「みやぎゼロカーボンチャレンジ2050県民会議の設立」、「再生可能エネルギー地域共生促進税条例の制定」、「クマによる人身被害の防止策」、「クリーンアップみやぎの取組」など各種施策の取組について掲載しました。

美しい自然に恵まれた本県の環境を守り、未来を担う子どもたちに引き継いでいくためには、県民の皆様一人ひとりの理解と行動が欠かせません。本書を通じて、環境への理解を深め、行動を起こすきっかけとしていただくことを期待します。

令和7年1月

宮城県知事 村井 嘉浩